

学校経営推進費 事業計画書

1. 事業計画の概要

| | |
|---------------|---|
| 学校名 | 大阪府立港南造形高等学校 |
| 取り組む課題 | 授業改善への支援（生徒の学力の充実） |
| 評価指標 | 1 外部機関の客観的学力診断テストにおける学力の向上 2 学校教育自己診断における生徒の授業満足度の向上 |
| 計画名 | 美術教育最先端“港南造形の ICT 飛躍的改造”計画 “Konan drastic innovation” |

2. 事業計画の具体的内容

| | | |
|--------------------------|--|---|
| 学校経営計画の 中期的目標 | <p>1 造形活動を通して、「確かな学力」と「表現力・プロデュース力」、「企画力・発信力」の育成</p> <p>(1) 造形活動を通して、造形文化、造形表現に必要な「確かな学力」、「表現力・プロデュース力」、「企画力・発信力」の育成に取り組む。</p> <p>ア 1年次より、全員がタブレット端末(BYOD)のポートフォリオ活用等による系統的学習習慣を身に付けることで、基礎的な学力を向上させる。また、「学校経営推進費」採択により設置するプロジェクタ(全 HR 教室)と連動させることで、「表現力・プロデュース力」、「企画力・発信力」を飛躍的に向上させる。「学習動画」を活用し、予習・復習の自学自習の習慣を身に付けさせることで、苦手教科(数学・理科)の克服を図る。</p> <p>イ 造形教育における圧倒的な知識・実技力を身に付けさせるとともに、少人数展開授業や ICT を活用した授業の拡充を図る。</p> <p>ウ 造形教科、普通教科ともにプレゼンテーションや相互批評を行うことを通して、主体的・対話的で深い学びを充実させる。また、読書活動の促進により、言語活動を充実させる。</p> | |
| 事業目標 | <p>㍿ 「ICT を活用した授業改善」により、学校教育自己診断において「授業内容に興味・関心をもつことができている。」の肯定的回答(平成 29 年度 78%、平成 30 年度 84%、令和元年度 80%)を、令和 4 年度には 90%に近づける。</p> <p>㍿ 「発信力」の育成について、卒業時にはすべての生徒が ICT 機器を活用して、プレゼンテーションができる力を身につけ、造形表現力とともに言語表現力の向上を図る。生徒が自らの考えをプレゼンテーションできる能力に加え、他者の考えも認め、互いに尊重し合えることができる力を育成する。今回、普通教室(15 室)への短焦点プロジェクタを設置することにより、生徒が所有する Android タブレット端末の活用を促進する。</p> | |
| 取組みの概要 | 整備する 設備・物品 | <p>㍿ 生徒が所有する Android タブレット端末と連動した普通教室(15 室)への短焦点プロジェクタの設置と生徒用ノート PC40 台の設置</p> <p>㍿ 生徒の学習向上のための質問・相談スペースを職員室前に設置</p> |
| | 取組内容 | <p>前年度</p> <p>苦手教科・科目克服のための「0時間授業」の実施(数学科)、前々年度よりの授業改善チームメンバーによる取組み。「家庭学習習慣」と連動して実施し、学力向上につなげる。第 1 学年は、個人のタブレットを使った授業を数学科中心に、各教科で展開。</p> <p>初年度</p> <p>大阪府教育センターの「パッケージ研修支援」事業を基本に、各教科での授業コンテンツの検討(～8月)、機器使用に向けた教員研修(8月)、カリマネリーダーによる授業実践スタート(9月～)、カリマネリーダーによる公開授業での実践発表と研究協議(11月)、学校教育自己診断(生徒)の分析と情報共有(1月)、教科別活用状況に対する評価(2月)、</p> |

| | | |
|----------------------|----------------|--|
| | | <p>次年度に向けた教科別活用方法の決定(3月)生徒が所有する Android タブレットと Chrome book を連携し、情報の検索・整理やプレゼンテーション資料の作成・発表を行う。</p> <p>10 年経験者研修やアドバンスセミナー受講者による授業公開も含め、各教員の授業スキルの向上及び活性化を図る。</p> |
| | 2年め | <p>造形科を含む全教科での活用(4月～)、各教科の代表による公開授業での ICT 活用の実践発表と研究協議(7月・11月)、学校教育自己診断の分析と情報共有(1月)教科別活用状況に対する評価(2月)、次年度に向けた教科別活用方法の検討(3月)</p> |
| | 3年め | <p>造形科を含む全教科での活用(4月～)、各教科の代表による公開授業での ICT 活用の実践発表と研究協議(7月・11月)、学校教育自己診断の分析と情報共有(1月)教科別活用状況に対する評価(2月)、次年度に向けた教科別活用方法の検討(3月)</p> |
| | 取組みの 主担・実施者 | <p>主担者：ICT活用授業改善チーム</p> <p>実施者：全教員の8割程度を予定(最終的には全教員)</p> |
| 成果の 検証方法 と評価指標 | 初年度 | <p>1 「スタディーサポート」の学力・学習バランス(総合)タイプ③(学力◎学習◎)を現状の50%を60%になるようにする。特に「数学」のGTZ「D1」を「C3」に向上させる。</p> <p>2 学校教育自己診断：「少人数の授業や、関心のある選択授業がある。」「授業に、興味・関心を持つことができている」(令和元年度平均84%)を90%に近づける。</p> |
| | 2年め | <p>1 「スタディーサポート」の学力・学習バランス(総合)タイプ③(学力◎学習◎)を現状の50%を65%になるようにする。特に「数学」のGTZ「D1」を「C3」に向上させる。</p> <p>2 学校教育自己診断：「少人数の授業や、関心のある選択授業がある。」「授業に、興味・関心を持つことができている」を90%に近づける。</p> |
| | 3年め | <p>1 「スタディーサポート」の学力・学習バランス(総合)タイプ③(学力◎学習◎)を現状の50%を70%に近づける。特に「数学」のGTZ「D1」を「C2」に向上させる。</p> <p>2 学校教育自己診断：「少人数の授業や、関心のある選択授業がある。」「授業に、興味・関心を持つことができている」を90%に近づける。</p> |